

平成29年度事業計画

我が国においては、少子高齢化が急速に進展し、超高齢社会（65歳以上の高齢者が占める割合が21%超）となっています。65歳以上の人口は、3,392万人（平成27（2015）年10月1日推計）に到達し、総人口の高齢者割合（高齢化率）は26.7%に達しています。総人口が減少する中で高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、平成47（2035）年に33.4%となり3人に1人が高齢者となる社会が到来すると推計されています。

このような推計の中、意欲と能力のある高齢者が地域社会で活躍し、生きがいをもって日々を過ごしていくための環境づくりが必要となっています。働く意欲のある高齢者が年齢にかかわらずその能力や経験をいかして生涯現役で活躍し続ける社会環境を整えるために、多様な雇用・就業機会を創出し、シルバー人材センターの職域拡大等の機能強化を通じて、高齢者が活躍する機会の拡大を図る必要から、シルバー人材センター事業の役割は益々重要となっています。

また、「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」の補助金については、算定基礎が就業実績によって変動することから積極的に事業を推進していく必要があり、会員の拡大も必須の課題となっています。

今後は、センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」の理念に基づき、長寿社会に向けて「会員の増強」や「就業開拓」「安全就業」等を重要な課題として積極的に取り組んでまいります。

2. 事業目標

事業目標を次のとおり設定し、計画的に事業を推進する。

- | | |
|------------|-----------|
| (1) 会員数 | 365人 |
| (2) 粗入会率 | 2.0% |
| (3) 就業率 | 90.0% |
| (4) 就業延べ人数 | 43,200人 |
| (5) 契約金額 | 175,000千円 |

3. 事業計画

(1) 就業機会の拡充と就業率の向上

役職員・会員による民間企業、一般家庭、地方公共団体等への受注の働きかけを積極的に行い、新規受注開拓を図り、会員に適した就業機会を確保する。

(2) 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業（通称サポート事業）への取り組み

高齢者活用・現役世代雇用サポート事業として育児支援や地域における人手不足分野等の新たな職域拡大に取り組み、女性の社会進出を後押しするとともに団塊の世代の活躍の場を創出する。

(3) 啓発活動の強化

当センターを理解してもらうためチラシの配布やホームページを活用した情報提供等の啓発活動を強化して、就業機会の確保・拡大につなげていく。

また、会員には毎月発行の「事務局だより」に情報を掲載し、常に全会員が情報を共有できるようにする。

(4) 安全・適正就業の徹底

安全・適正就業委員会を定期的開催し、事故撲滅のための検証を行う。また、委員と職員による就業現場の巡回指導を強化し、会員の自覚と責任を啓発するために安全・適正就業強化月間や「作業前チェックリスト」による事前点検の実施及び安全・適正就業の日を設け、安全就業の徹底を図る。

(5) 健康管理意識の高揚

市が実施する各種検診を受診するよう働きかけるとともに、親睦会行事の「ゴルフ」や「グランドゴルフ」等サークル活動への積極的参加を推進するなど、自己管理意識の高揚を図る。また、インフルエンザ予防接種を受け易いように当センターで集団予防接種を実施する。

(6) 会員の拡大

健康で働く意欲のある高齢者の入会を促進するために、会員や役職員の口コミによる勧誘活動を積極的に行うとともに、親睦会の活動を通じて啓発・勧誘を実施する。

(7) 会員の技術向上と新規技能者の養成

職種転換による後継者の育成や新入会員に対し、自主研修や実技研修を行い、技術向上・新規技能者の養成に努める。

(8) シルバーカルチャー教室の開室

会員の専門知識を生かし、楽しく学んで趣味の世界を広げるため、「シルバーカルチャー教室」を随時開催し、会員の拡大を図る。

(9) 交通事故防止対策の実施

会員の就業中や就業途上はもとより、日常生活における交通事故を未然に防ぐため、今年度も「高齢者・初心者しあわせドライブ」事業への参加や、事故防止のために黄色いウインドブレーカーの着用を推進して、事故防止の意識を高める。

(10) 桐生市シルバー人材センターとの交流

隣接する桐生市シルバー人材センターと積極的な情報交換を行い、交流を深める。また、両互助会組織の交流行事を支援していく。

(11) 社会奉仕活動の推進

10月のシルバーの日に、岩宿博物館、阿左美沼、農林業センター、赤城駅、袈裟丸山登山口等の植え込みの手入れや清掃奉仕活動を実施するなど、積極的に社会奉仕活動を行う。